

香川短期大学 生活文化学科 生活介護福祉専攻課程のあゆみ

藤 井 園美子・植 谷 澄 子・荒 谷 友里恵・田 村 充
横 本 俊 美・黒 木 ひとみ・岩 永 十紀子

はじめに

2001（平成13）年4月に設置された、香川短期大学 生活文化学科 生活介護福祉専攻課程（以下、「本専攻」という。）は、介護福祉士養成等を担い2022（令和4）年度で22年目を迎えた。

本専攻は、1998（平成10）年に学校法人尽誠学園香川看護福祉専門学校に開設された介護福祉学科から、専門職としてより高度な教育を担うために同じ法人内にある香川短期大学に移設された。

本専攻は、初年度より社会のニーズに対応し生活全般を支えるための知識・技術を修得し、やさしさと豊かな人間性を身につけた介護福祉士の養成に取り組んできた。

また、高等学校卒業と同時に入学した者（以下、「新卒生」という。）から社会人（新卒生以外）まで幅広い年代の学生が、その時々での社会の状況やニーズ等に応じて取得したい資格や自分の生活スタイル、興味等に合わせて学ぶことができるようカリキュラムの編成を行ってきた。

この22年間の本専攻のあゆみについて教育目標、カリキュラム、教育内容・活動、卒後の進路等を振り返り述べていく。

I. 本専攻の沿革

本専攻は、開設当初から介護福祉士養成を主な目的としてカリキュラム編成がなされてきた。

2005（平成17）年度からは、社会福祉士国家試験受験資格（2年間の実務経験が必要）取得のための科目も設置、その後2009（平成21）年には介護福祉士養成課程における教育内容の見直しが行われた。本専攻においても教育内容の見直しを行うと同時に、介護福祉士の養成を主な目的とする「生活介護福祉専攻 ケアコース」と新たに健康や福祉に関連した科目を広く学ぶことができる「生活介護福祉専攻 ウエルネスコース」の2コースを設けた。2010（平成22）年度からは、「生活介護福祉専攻」を「生活介護福祉専攻課程」とした。しかし、「生活介護福祉専攻課程 ウエルネスコース」は入学生が少なかったため、2011（平成23）年4月から学生募集を停止し、2012（平成24）年度入学生からは「生活介護福祉専攻課程 ケアコース」を「生活介護福祉専攻課程」とした。そして、2021（令和3）年4月から学生募集を停止し、現在に至っている。本専攻の沿革及び主な出来事は表1の通りである。

II. 本専攻の教育目標と三つのポリシー

教育目標と三つのポリシーは、介護福祉士養成課程における教育内容の見直しに対応して変更してきた。以下は、2021（令和3）年度入学生の教育目標と三つのポリシーである。（但し、生活文化学科生活介護福祉専攻課程のみ抜粋）

生活文化学科 生活介護福祉専攻課程の教育目標¹⁾

令和4年12月20日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)8035 FAX 0877(49)5252
Email fujii@kjc.ac.jp

表1 生活介護福祉専攻課程の沿革及び主な出来事

年度（和暦）	沿革・主な出来事
2001（平成13）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年に香川看護福祉専門学校に開設された介護福祉学科を、香川短期大学に移設（生活文化学科生活介護福祉専攻開設） ・卒業要件を77単位以上（総時間数1650時間以上）修得とした（介護福祉士資格取得＝卒業要件）
2002（平成14）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・香川短期大学学生赤十字奉仕団設立
2004（平成16）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件を62単位以上修得とし、介護福祉士資格取得と卒業要件を切り離した
2005（平成17）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する科目（社会福祉士国家試験受験資格取得にかかる科目）設置
2006（平成18）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア福祉研修下見で2か所の高齢者施設見学（平成19年2月8日～13日）
2007（平成19）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア福祉研修（平成20年2月14日～19日）
2008（平成20）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・11月11日「介護の日」と決定（厚生労働省）し、毎年啓発活動実施（2019年まで実施） ・オーストラリア福祉研修で高齢者看護科のあるクイーンズランド工科大学訪問（平成21年3月5日～10日）
2009（平成21）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護福祉専攻に「ケアコース」、「ウエルネスコース」の2コースを設置 ・カリキュラム改正がなされ1650時間以上から1800時間以上に変更 ・香川県における再就職促進訓練事業（香川県立高等技術学校からの職業訓練委託事業）開始 ・香川県における働きながら資格をとる「介護雇用プログラム」実施 ・香川県における「介護福祉士等修学資金貸付制度」開始
2010（平成22）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活介護福祉専攻」から「生活介護福祉専攻課程」とした ・オーストラリア福祉研修（11月18日～23日） ・美崎の家研修終了
2011（平成23）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活介護福祉専攻課程 ウエルネスコース」の募集停止 ・KJCクラス研修開始
2012（平成24）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活介護福祉専攻課程 ケアコース」を「生活介護福祉専攻課程」とした
2014（平成26）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容に「医療的ケア」実質50時間追加（総時間数1800時間以上から1850時間以上）
2015（平成27）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県介護人材確保事業「福祉のとびら」を開催し毎年小学校（中学校）へ出向き、学生または卒業生が教員とともに介護福祉に関する授業を実施
2016（平成28）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家資格取得方法が変更となり、国家試験受験資格取得となる（国家試験を受験し合格するまたは、卒業後5年間継続して介護業務に従事することで、資格が得られる） ・KJCクラス研修終了
2017（平成29）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する科目（社会福祉士国家試験受験資格取得）を廃止 ・外国人長期履修留学生（3年履修）制度開始 ・帯広大谷短期大学から来校し大学祭視察 ・中国江南大学文化・学術研修（9月19日～25日）
2018（平成30）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・帯広大谷短期大学大学祭を視察 ・帯広大谷短期大学と生活介護福祉専攻課程の合同授業実施（1月18日）
2019（令和元）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇多津町を障がい者にとって住みよくする活動」を開始（令和4年まで実施）
2021（令和3）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の見直しがなされた（1850時間以上は変わりなし） ・医療的ケア科目に講義を30時間追加 ・生活文化学科生活介護福祉専攻課程学生募集停止

- ①一人ひとりを大切にし、人間の尊厳を守れる人材の育成
- ②豊かな感性と福祉に関する高度な知識と技術を兼ね備えた介護福祉士の養成
- ③誰もが自分らしく幸せに生きられるよう支援できる人材の育成

三つのポリシー¹⁾

(1) アドミッションポリシー

【入学者に求める学力・能力・資質等】

香川短期大学は、広く国内外から本学の建学の精神と教育目標を理解し、社会に貢献できる実力を身につけたいという強い意志と意欲をもつ学生を求めています。

生活文化学科 生活介護福祉専攻課程

本専攻課程では、次のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

(知識・技能)

- ①介護福祉士として必要な専門的知識・技術を修得することができる基礎学力や技能を身につけていること

(思考力・判断力・表現力)

- ②介護や福祉に関する情報を収集・抽出・選択し、それらに基づいて自分の考えを表現できること
(主体性・協働性等)

- ③介護福祉に係る多様な事柄に関心を持ち、倫理観や使命感を持って、介護福祉士としての資質や能力を高めようとする主体性を身につけていること

- ④他者と協調・協働しながら、介護福祉に関する学びや活動に取り組む態度を身につけていること

(2) カリキュラム・ポリシー

香川短期大学は、本学の建学の精神と教育目的に基づき、学生の豊かな人間性と自己確立を促進し、それぞれの専門とする分野の知識、技術の向上を図り、ディプロマ・ポリシーに示した人材を育成するために、全学共通の「共通科目」と、学科、専攻課程ごとの「専門教育科目」の二つの大きな柱に分けてカリキュラムを編成しています。

共通科目は、一般教育科目、外国語科目、保健体

育科目を通して基礎的な知識・技能及び学習能力を獲得し、人間、社会に対する理解とキャリア形成のための幅広い教養と豊かな人間性を身に付けるための素養を養います。

専門教育科目は、それぞれの学科、専攻課程ごとの教育目標に合わせ、理論と実践の両面から学びます。

また、科目間の関連を示すカリキュラム・ツリーによって、カリキュラムの体系・構造をわかりやすく明示しています。

なお、カリキュラム・ポリシーに含まれる「学修成果の評価」については、アセスメント・ポリシーとして別に定めています。

生活文化学科 生活介護福祉専攻課程のカリキュラム・ポリシー

本専攻課程の教育内容・教育方法は次の通りです。

1. 健康で文化的な生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。
2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標と学修成果との対応、授業計画(授業内容及び事前事後学習と時間)、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。
3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。
4. 介護福祉の本質と目的について理解し、介護福祉士として必要な専門的知識及び技術を身につけるため、介護福祉士国家資格取得に係わる「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」の教育体系に基づき、理論と実践の融合ができるように学年・学期別に科目配置を行います。
5. 介護福祉に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、介護実習を通して、介護福祉士としての倫理性や資質を高め、その人らしい生

活を支援するための能力を養います。

6. 介護福祉士として、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる能力、他者と協調・協働するためのコミュニケーション能力、思考力及び判断力を養う教育を行います。

(3) ディプロマ・ポリシー

香川短期大学は、本学の教育課程において厳格な成績評価を行い、建学の精神に基づき、幅広く深い教養と自主・自律の精神及び豊かな人間性を身につけ、それぞれの専門分野の知識と技術を修得して、地域社会に貢献できると認められる学生に対して卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

生活文化学科 生活介護福祉専攻課程のディプロマ・ポリシー

本専攻課程は学則に定める修業年限以上在学し、同じく学則に定める単位数を修得し、次に掲げる目標を達成した学生に対して卒業を認定し、短期大学学士の学位を授与します。

- ・介護福祉の本質と目的について理解し、介護福祉士として必要な専門的知識及び専門的技術・技能を身につけている
- ・地域社会や個々のニーズに対応できる思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力を身につけている
- ・介護福祉士としての倫理観と使命感及び介護福祉に対する関心と意欲を持っている
- ・自らの資質や能力を高めようとする態度及び他者と協調・協働しようとする態度を身につけている

Ⅲ. 本専攻の入学・卒業状況

本専攻は、2001（平成13）年度39名（定員40名）の入学者を迎え、スタートした。2021年度までの21年間に於いて入学定員を満たすこともあったが、なかなか定員を満たすことは難しく、2020年度、2021年度の2年間は定員を大きく下回った。

2009（平成21）年度からは、香川県における再就職促進訓練事業（香川県立高等技術学校からの職業訓練委託事業として「介護福祉科」）を利用した入学方式が開始となり延べ105名が利用した。

2011（平成23）年度は、香川県における「働きながら資格をとる介護雇用プログラム」が設けられ「介護福祉士コース」に3名が利用し学生募集の枠も広がった。

また、香川県における「介護福祉士等修学資金貸付制度」も2009（平成21）年度から開始され、より学習しやすい環境が整い延べ59名が利用した。

入学者は、2001（平成13）年～2021（令和3）年の21年間で512名、卒業者は、2022（令和4）年3月時点において449名であった。

入学者512名の内訳は、新卒生339名、社会人165名、留学生8名であった。

卒業者449名の内訳は、新卒生304名、社会人141名、留学生4名であった。

なお、2022（令和4）年9月時点において、2021（令和3）年度入学生10名（社会人5名）が在籍中である（表2）。

Ⅳ. 本専攻のカリキュラムについて

1. 介護福祉士（国家試験受験資格）資格取得のための科目について

初年度である2001（平成13）年度入学生から2003（平成15）年度入学生までは、社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則（介護福祉士の養成施設の指定基準）に示されている1650時間以上（77単位以上）を修得することを卒業要件とした。すなわち、介護福祉士国家資格が卒業要件であった。

2004（平成16）年度入学生からは、卒業要件を本学卒業要件と同様の62単位とし、履修科目を選択しやすくした。そのため、介護福祉士国家資格取得を目指す者は、専門教育科目63単位以上を修得することとなった。すなわち、卒業要件と介護福祉士国家資格取得を切り離すこととなった。

2005（平成17）年度入学生からは、介護福祉士国家資格取得に併せて社会福祉士国家試験受験資格のための科目を配置し、2008（平成20）年度入学生までは、介護福祉士国家資格取得には、専門教育科目68単位以上を修得することとなった。

2009（平成21）年度入学生からは、介護福祉士養成における教育内容の見直しが行われた。介護ニーズの変化を踏まえて介護実践に資する教育内容とな

表2 生活介護福祉専攻入学者数と卒業者数（1学年定員40名）

（人）

入学年度	コース	入学者数 (留学生)		社会人（再掲）		留年者数	入学年度 卒業者数		退学者数
2001（平成13）年		39		7		3	32		7
2002（平成14）年		25		5		0	23		2
2003（平成15）年		25		2		1	22		3
2004（平成16）年		42＋（１）		5		1	35		8
2005（平成17）年		26＋（１）		3		2	24		3
2006（平成18）年		20		2		1	20		0
2007（平成19）年		23		6		4	20		3
2008（平成20）年		18		2		1	18		0
2009（平成21）年	ケア	31	33	13	14	1	29	31	2
	ウエルネス	2		1		1	2		
2010（平成22）年	ケア	37	43	22	22	0	32	38	5
	ウエルネス	6		0		0	6		
2011（平成23）年	ケア	22	23	14	14	1	20	21	2
	ウエルネス	1		0		0	1		
2012（平成24）年		27		15		2	26		1
2013（平成25）年		21		13		2	18		3
2014（平成26）年		23		8		0	21		2
2015（平成27）年		18		7		0	18		0
2016（平成28）年		20		7		0	17		3
2017（平成29）年		18		7		0	15		3
2018（平成30）年		23＋（２）		10		0	23		2
2019（平成31）年		14＋（４）		6		0	15		3
2020（令和２）年		12		5		0	12		0
2021（令和３）年		11		6		0	10		1
合 計		512		166		19	459		53

るようカリキュラムが大きく改正され、時間数も1800時間以上と変更になった。このため、介護福祉士国家資格取得（生活介護福祉専攻ケアコース）には専門教育科目77単位以上を修得しすることが必要となった。このカリキュラムは、生活介護福祉専攻課程ケアコースが設置されていた2011（平成23）年度入学生まで続いた。

2012（平成24）年度入学生からは、コースが廃止となり、介護福祉士国家資格取得には、専門教育科目75単位以上を修得することとなった。

2014（平成26）年度からは、「医療的ケア」科目

がカリキュラムに配置され、1850時間以上となり、年度によって専門教育科目に変動があるため、専門教育科目78単位～83単位以上を修得することが求められるようになった。

2021（令和3）年度入学生から、再度教育内容の見直しがなされ新しい科目が導入された（総時間数に変動はなかった）ことと、「医療的ケア」科目を30時間増やしたことにより、85単位以上を修得することが求められるようになった。

次に、介護福祉士養成において重要な「介護福祉士国家資格」「医療的ケア」科目「介護実習」科目

に焦点を当てて述べていく。

(1) 介護福祉士国家資格について

2001（平成13）年度入学生から2015（平成27）年度入学生までは社会福祉士介護福祉士学校指定規則に規定する教育内容を履修することで「介護福祉士国家資格」が取得できた。

ところが、2016（平成28）年度入学生からは、社

会福祉士介護福祉士学校指定規則に規定する教育内容を履修しても「介護福祉士国家試験受験資格」が取得できるのみとなり、実務経験者と同じく介護福祉士国家試験を受験し、合格することが必要となった。ただし、2026（令和8）年度卒業までの者は国家試験不合格あるいは国家試験を受験しなくても卒業後5年間の期限付きで介護福祉士の登録ができるという付帯条項がついた。介護福祉士資格取得方法

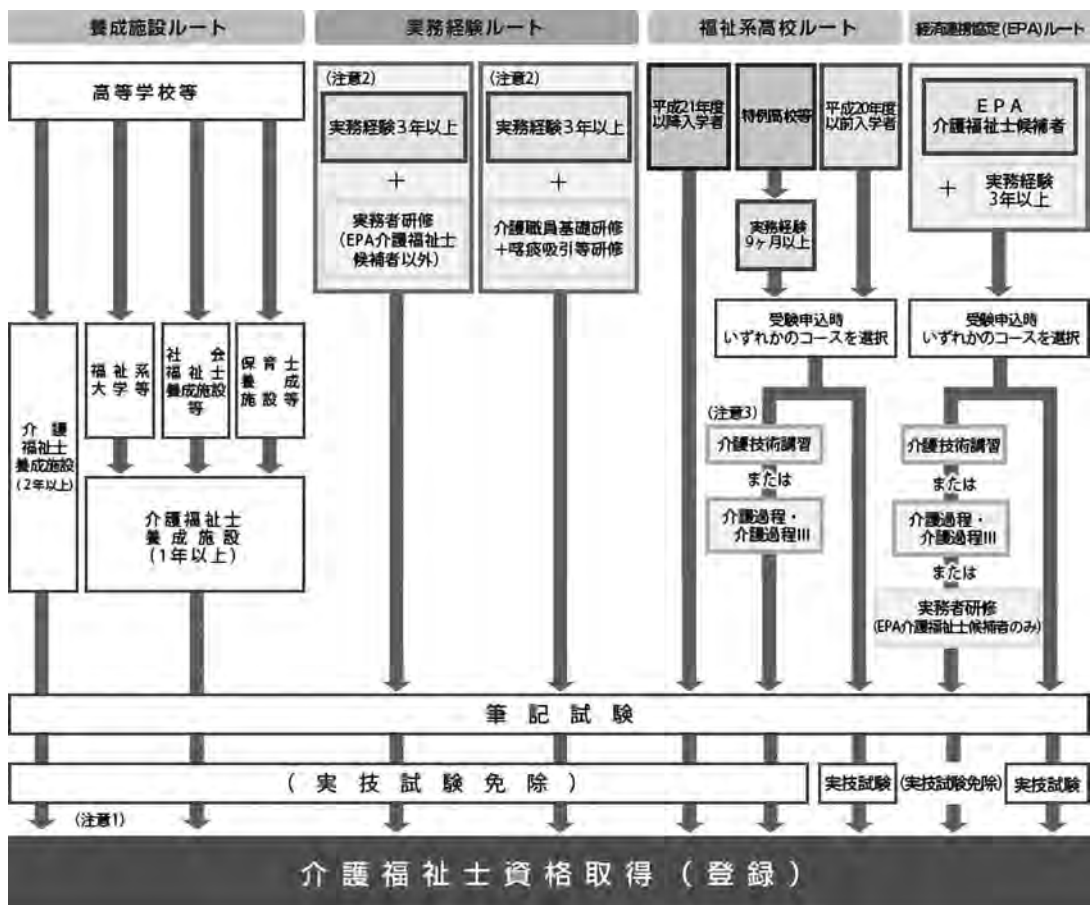


図1 介護福祉士資格取得方法²⁾

(注意1) 「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正により、平成29年度（第30回）から、養成施設ルートが介護福祉士国家試験の受験資格となりました。なお、養成施設を令和8年度末までに卒業する方は、卒業後5年間は、国家試験を受験しなくても、または、合格しなくても、介護福祉士になることができます。この間に国家試験に合格するか、卒業後5年間続けて介護等の業務に従事することで、5年経過後も介護福祉士の登録を継続することができます。令和9年度以降に養成施設を卒業する方からは、国家試験に合格しなければ介護福祉士になることはできません。

(注意2) 実務経験ルートで受験を希望する方は「実務経験3年以上」だけでは受験できません。

(注意3) 平成20年度以前に福祉系高等学校（専攻科を含む）に入学し、卒業した方、特例高等学校（専攻科を含む）を卒業し、9ヶ月以上介護等の業務に従事した方が、「実技試験の免除」を申請する場合は、「介護技術講習」、「介護過程」、「介護過程III」のいずれか1つを修了または履修する必要があります。

については、図1の通りである。

2021（令和3）年度入学生「介護福祉士国家試験

受験資格」取得の履修方法について（資料1）³⁾ 及

び図2カリキュラム・ツリー⁴⁾は、以下の通りである。

資料1 令和3年度入学生「介護福祉士国家試験受験資格」取得の履修方法について

（2021（令和3）年入学生の学生便覧）

①共通科目

(a) 一般教育科目：3科目6単位以上を選択必修。

(b) 外国語科目：『英語Ⅰ』、『中国語』、『韓国語』及び『フランス語』のうち、何れか2単位を選択必修。

(c) 保健体育科目：『保健体育』1単位及び『体育実技』1単位必修。

②専門教育科目

No.1

学校指定規則による教育内容				当該養成施設における教科の開設状況等			
領域		教育内容	時間数	左に対応して開設 されている教科目	形式	単位数	時間数
人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	30以上	人間の尊厳と自立	L	2	30
		人間関係とコミュニケーション	60以上	人間関係とコミュニケーション	E	1	30
	チームマネジメント			L	2	30	
	社会の理解	60以上	社会福祉概論	L	2	30	
			高齢者福祉論	L	2	30	
			障害者福祉論	L	2	30	
	人間と社会に関する選択科目	－	地域福祉の理論と方法	L	2	30	
			ウェルネスライフ論	L		30	
小 計			240				240

No.2

学校指定規則による教育内容				当該養成施設における教科の開設状況等			
領域	教育内容	時間数		左に対応して開設されている教科目	形式	単位数	時間数
介護	介護の基本	180		生活概論	L	2	30
				生活文化論	L	2	30
				介護の基本Ⅰ	L	2	30
				介護の基本Ⅱ	L	2	30
				介護の基本Ⅲ	L	2	30
				生活とアクティビティ	L	2	30
	コミュニケーション技術	60		コミュニケーション技術Ⅰ	E	1	30
				コミュニケーション技術Ⅱ	E	1	30
	生活支援技術	300		家政学	E	2	60
				生活支援技術（基礎Ⅰ）	E	2	60
				生活支援技術（基礎Ⅱ）	E	2	60
				生活支援技術（応用Ⅰ）	E	2	60
				生活支援技術（応用Ⅱ）	E	2	60

介 護	介護過程	150	介護過程A	E	1	30
			介護過程B	L	2	30
			介護過程C	E	1	30
			介護研究	E	2	60
	介護総合演習	120	介護総合演習Ⅰ	E	1	30
			介護総合演習Ⅱ	E	1	30
			介護総合演習Ⅲ	E	1	30
			介護総合演習Ⅳ	E	1	30
	介護実習	450	介護実習Ⅰ	P	2	80
			介護実習Ⅱ	P	2	80
			介護実習Ⅲ	P	3	120
			介護実習Ⅳ	P	4	170
小　　計		1260	小　　計			1260
こ こ ろ と か ら だ の し く み	こころとからだのしくみ	120	人体の構造と機能	L	2	30
			こころとからだのしくみA	L	2	30
			こころとからだのしくみB	L	2	30
			こころとからだのしくみC	L	2	30
	発達と老化の理解	60	発達と老化の理解A	L	2	30
			発達と老化の理解B	L	2	30
	認知症の理解	60	認知症の理解A	L	2	30
			認知症の理解B	L	2	30
	障害の理解	60	障害の理解A	L	2	30
			障害の理解B	L	2	30
小　　計		300	小　　計			300

No.3

学校指定規則による教育内容			当該養成施設における教科の開設状況等			
領域	教育内容	時間数	左に対応して開設 されている教科目	形式	単位数	時間数
医 療 的 ケ ア	医療的ケア	実時間 50	医療的ケアⅠ	L	2	30
			医療的ケアⅡ	L・E	2	60
			医療的ケアⅢ	L・E	2	60
小 計		50	小 計			150
合 計		1850 以上	合 計			1950

学生便覧〈令和3年度入学生用〉より抜粋

		介護福祉士										科目数
		専門科目										科目数
共通科目		人間と社会	介護	介護実習	こころとからだのしくみ	健康ケア	その他				合計	
2 年後期	教養課程※1	チームマネジメント	生活文化論	介護実習Ⅰ	介護と老化の理論B	健康増進	その他				12	
	保健体育	地域福祉の理論と方法	生活支援技術（応用Ⅰ）	介護実習Ⅱ	介護と老化の理論A	健康増進						
	体育実技	介護研究	介護研究	障害の理論B	介護実習管理Ⅰ	健康増進						
	（英語Ⅰ）	介護総合実習Ⅳ	介護総合実習Ⅳ	介護実習管理Ⅱ	介護実習管理Ⅱ	健康ケア高度						
2 年前期		人間の尊厳と自立	介護の根本Ⅱ	介護実習Ⅰ	こころとからだのしくみA	医療的ケアⅡ					15	
	人間関係とコミュニケーション	認知学	介護実習Ⅱ	介護と老化の理論B	医療的ケアⅠ	介護実習管理Ⅰ						
		生活支援技術（応用Ⅰ）	介護実習Ⅲ	障害の理論A		介護実習管理Ⅱ						
		介護基礎論	介護実習Ⅳ	障害の理論B		介護実習管理Ⅲ						
1 年後期	心理学※	社会福祉概論	介護の根本Ⅰ	介護実習Ⅰ	こころとからだのしくみB	医療的ケアⅡ					20	
	日本国憲法※1	生活とアクティブエイジ	介護実習Ⅱ	認知症の理論B		介護実習管理Ⅰ						
	英語Ⅰ※2	コミュニケーション技術Ⅰ	介護実習Ⅲ	障害の理論A								
	中間試験※2	生活支援技術（基礎Ⅰ）	介護実習Ⅳ									
1 年前期	轉入試験※2	介護基礎論Ⅱ	介護総合実習Ⅱ	介護実習Ⅰ	人体の構造と機能	医療的ケアⅠ					37	
	（フランス語）※2	介護基礎論Ⅱ	介護総合実習Ⅱ	介護実習Ⅱ	こころとからだのしくみA	介護実習管理Ⅰ						
		高齢者の福祉	介護実習Ⅲ	認知症の理論A		介護実習管理Ⅱ						
		介護福祉士試験	介護実習Ⅳ			日本の文化						
	情報リテラシー※1	高齢者福祉論	介護の根本Ⅰ	介護実習Ⅰ	こころとからだのしくみB	医療的ケアⅠ					17	
		障害者福祉論	コミュニケーション技術Ⅰ	介護実習Ⅱ	認知症の理論A							
		ウェルネスライフ論	コミュニケーション技術Ⅱ	介護実習Ⅲ								
			生活支援技術（基礎Ⅰ）	介護実習Ⅳ								

図2 令和3年度 生活文化学科 生活介護福祉専攻 カリキュラム・ツリー

表3 医療的ケアの授業について

入学年度	授業形態等	時間数（時間）
2013（平成25）年	その他：医療的ケア	演習：90
2014（平成26）年	専門教育科目：医療的ケア	講義・演習：90
2015（平成27）年 2016（平成28）年	専門教育科目：医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ	講義：30 講義・演習：60
2017（平成29）年～ 2020（令和2）年	専門教育科目：医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ	講義・演習：60 講義・演習：60
2021（令和3）年	専門教育科目：医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 医療的ケアⅢ	講義：30 講義・演習：60 講義・演習：60

（2）医療的ケアについて

「医療的ケア」の科目を、2014（平成26）年度入学生からカリキュラムに組み込み、単位取得者（介護福祉士国家試験受験資格取得者は必修）には医療的ケア基本研修修了証を発行した。2015（平成27）年度入学生からは「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正に基づき「医療的ケア」の科目が必修となった。医療的ケアは、講義50時間と演習（各行為5回以上但し救急蘇生法のみ1回以上）が課せられており、演習は、一定の基準に達すること（実技試験に合格すること）が条件であるため時間外での演習を余儀なくされていたことから、順次時間数を増やして2021（令和3）年度入学生には、講義30時間を追加した。（表3参照）

（3）介護実習について

本専攻開設後2回のカリキュラム改正が行われたが「介護実習」科目の総時間数は、450時間で変わっていない。

しかし、2009（平成21）年度教育内容の見直しにより教員の定期的巡回指導に係る基準は緩和されたが、実習期間中に養成施設等において学習する日（帰校日）を計画的に設けることとなり、帰校日は介護実習時間から切り離された。

また、実習施設の基準についても「利用者の暮らしや住まい等」を理解できるように、「利用者の生活の場として、小規模多機能型居宅介護事業、認知症対応型老人共同生活援助事業等を始めとして、居宅サービスを中心とする多様な介護現場」⁵⁾も実習先となった。さまざまな生活支援を体験し、施設入

所前の地域で過ごしている利用者やその家族とのかかわり等を体験する実習も組み込み、軽度の介護を必要とする利用者から入所施設等での重度の介護を必要とする利用者まであらゆる状態の利用者に対する介護実習を展開し、各段階における到達度に合わせて日数や施設種別の変更を行った。介護実習については表4の通りである。

① 2001（平成13）年度入学生～2008（平成20）年度入学生まで

実習時間は、8：30～16：30の8時間とした。

介護過程の展開を行う介護実習は、帰校日を2日（1週目と3週目終了時）設け、介護実習時間数に組み込んだ。

実習施設は、入所施設3か所、居宅介護事業所1か所の4か所である。

- ・入所施設3か所は、㊦特別養護老人ホーム、㊧介護老人保健施設、㊨障害者支援施設、㊩救護施設、㊪重症者心身障害者施設のうち、㊦・㊧の2か所と㊨・㊩・㊪のいずれか1か所である。
- ・居宅介護事業所1か所は、社会福祉協議会、在宅介護支援センター、認知症対応型共同生活介護、訪問介護事業所のいずれか1か所である。

② 2009（平成21）年度入学生～2016（平成28）年度入学生

2009（平成21）年度～2011（平成23）年度は生活介護福祉専攻課程ケアコース入学生が対象である。

実習時間は、8：30～17：30の8時間とし、休憩時間を1時間設けた。

介護過程の展開を行う介護実習は帰校日を1日（1週目終了時）設けたが、介護実習時間数には組

表４ 介護実習について

入学年度	実習段階（実習施設等）	時間数	日数
2001（平成13）年	介護実習Ⅰ（施設）※ ¹	104	13日
	介護実習Ⅱ（施設）・（居宅）※ ²	168	16日・5日
	介護実習Ⅲ（施設）	184	23日
2002（平成14）年	介護実習Ⅰ（施設）	80	10日
	介護実習Ⅱ（施設）・（居宅）	192	19日・5日
	介護実習Ⅲ（施設）	200	25日
2003（平成15）年 2004（平成16）年	介護実習Ⅰ（施設）	80	10日
	介護実習Ⅱ（施設）・（居宅）	200	20日・5日
	介護実習Ⅲ（施設）	180	25日
2005（平成17）年～ 2008（平成20）年	介護実習Ⅰ（施設）	90	10日
	介護実習Ⅱ（施設）・（居宅）※ ³	200	20日・5日
	介護実習Ⅲ（施設）	200	25日
2009（平成21）年	介護実習Ⅰ－1（通所）・（G又は小）※ ⁴	56	2日・5日
	介護実習Ⅰ－2（高齢）※ ⁵ ・（小又はG）	80	5日・5日
	介護実習Ⅰ－3（施設）	120	15日
	介護実習Ⅰ－4（居宅）	40	5日
	介護実習Ⅱ（施設）	160	20日
2010（平成22）年 2011（平成23）年	介護実習Ⅰ－1（通所）・（小又はG）	80	2日・3日又は5日
	介護実習Ⅰ－2（施設）	56	7日
	介護実習Ⅰ－3（施設）	120	15日
	介護実習Ⅰ－4（居宅）	40	5日
	介護実習Ⅱ（施設）	160	20日
2012（平成24）年	介護実習Ⅰ（通所・G・小）	80	2日・3日・5日
	介護実習Ⅱ（施設）	80	10日
	介護実習Ⅲ（施設）	120	15日
	介護実習Ⅳ（居宅）・（施設）	170	3日・19日
2013（平成25）年	介護実習Ⅰ（G・通所・小）	80	3日・2日・5日
	介護実習Ⅱ（施設）	80	10日
	介護実習Ⅲ（施設）	120	15日
	介護実習Ⅳ（訪問）※ ⁶ ・（施設）	170	3日・19日
2014（平成26）年～ 2016（平成28）年	介護実習Ⅰ（通所・G・小）	80	3日・3日・4日
	介護実習Ⅱ（施設）	80	10日
	介護実習Ⅲ（施設）	120	15日
	介護実習Ⅳ（訪問）・（施設）	170	3日・19日
2017（平成29）年～ 2021（令和3）年	介護実習Ⅰ（通所・G・小）	80	3日・3日・4日
	介護実習Ⅱ（施設・知的又は精神※ ⁷ ）	80	5日・5日
	介護実習Ⅲ（施設）	120	15日
	介護実習Ⅳ（訪問・施設）	170	3日・19日

※1：特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者支援施設（身体）・救護施設

※2：社会福祉協議会・介護支援センター・認知症対応型共同生活介護・訪問介護事業所・・・平成20年度入学生まで

※3：社会福祉協議会・訪問介護事業所・・・平成21年度入学生から

※4：通所介護・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護

※5：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設

※6：社会福祉協議会・訪問介護事業所・・・平成25年度入学生から居宅介護実習を訪問介護実習に名称変更

※7：障害者支援施設（知的障害者・精神障害者）、障害福祉サービス事業所

み込んでいない。

実習施設は、入所施設3か所、居宅介護事業所1か所、通所介護、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護の7か所である。

- ・入所施設3か所は、㊦特別養護老人ホーム、㊧介護老人保健施設、㊨障害者支援施設、㊩救護施設のうち、㊦・㊧の2か所と㊨または㊩のいずれか1か所である。
- ・居宅介護事業所1か所は、社会福祉協議会、訪問介護事業所のいずれか1か所である。

③ 2017（平成29）年度入学生～2021（令和3）年度入学生

実習時間は、8：30～17：30（8時間）とし、休憩時間を1時間設けた。

介護過程の展開を行う介護実習において帰校日（1週目終了時）を設けたが、介護実習時間数には組み込んでいない。

2017（平成29）年度から社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目を廃止したため実習（相談援助実習）もなくなったが、この実習先の一部を介護実習施設の種別として増やした。

実習施設は、入所施設3か所、訪問介護事業所1か所、通所介護、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、障害福祉サービス事業所等の8か所である。

- ・入所施設3か所は、㊦特別養護老人ホーム、㊧介護老人保健施設、㊨障害者支援施設、㊩救護施設のうち、㊦・㊧の2か所と㊨または㊩のいずれか1か所である。
- ・訪問介護事業所1か所は、社会福祉協議会、訪問介護事業所のいずれか1か所である。

④ 2020（令和2）年度の介護実習

新型コロナウイルス感染症の影響により、前期（5月・6月）と夏季休業中に予定していた学外での介護実習（1年生：10日間、2年生：22日間）を学内での介護実習に変更し、単位を取得できるように配慮した。

2. 社会福祉士国家試験受験資格（要卒業後2年間の実務経験）の科目について

2005（平成17）年度から介護福祉士だけでなく、さらに他の福祉に関する資格も取得して、福祉のエ

キスパートとして社会で活躍したいという希望を叶える、また、専門学校との差異化も図る目的で、2年間在学中に社会福祉士国家試験受験資格（2年間の実務経験が必要）も同時に取得できるよう科目を設けた。2004（平成16）年度入学生も2年次に必要な科目の履修ができるように配慮した。

2005（平成17）年度入学生から2008（平成20）年度入学生まで、社会福祉に関する科目（51単位）を修得（要卒業後2年間の実務経験）し、国家試験が受験できるよう科目の追加及び科目名の変更を行った。

社会福祉士国家試験受験資格も2009（平成21）年度入学生からカリキュラム改正に伴い、科目等の変更が行われ、2009（平成21）年度から2011（平成23）年度の生活介護福祉専攻課程ケアコース入学生は社会福祉に関する科目58単位を修得（要卒業後2年間の実務経験）し、国家試験が受験できるようにした。

また、本専攻において、主に健康や福祉について幅広く学びたい、また、社会福祉士国家試験受験資格を目指したいという学生のために、2009（平成21）年度入学生から2011（平成23）年度入学生まで生活介護福祉専攻課程ウエルネスコースを設置し同様に社会福祉に関する科目58単位を修得（要卒業後2年間の実務経験）し、国家試験が受験できるようにした。

2012（平成24）年度入学生から2016（平成28）年度入学生までは、社会福祉に関する科目（58単位）を修得（要卒業後2年間の実務経験）し、国家試験が受験できるようにした。

また、社会福祉士受験資格取得に必要なとなる学外実習は介護福祉士養成の介護実習とは別に180時間が課せられている。

学外実習については、2008（平成20）年度入学生までは、「社会福祉援助技術現場実習」の科目、2009（平成21）年度入学生からは、「相談援助実習」の科目で行った。実習先は、医療機関、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、救護施設、社会福祉協議会、児童福祉施設、高齢者施設である。180時間の実習については表5の通りである。

しかし、介護福祉士養成カリキュラムの改正に伴い2001（平成13）年に開始したときは介護福祉士養成に求められたのは1650時間以上であったが、2009（平成21）年には1800時間以上となり、2014（平成

表5 社会福祉士国家試験受験科目の現場実習について

入学年度	科目名	時間数	日数
2005（平成17）年～ 2008（平成20）年	社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習	90時間 ^{※2} 90時間	10日 10日
2009（平成21）年～ 2016（平成28）年	相談援助実習 ^{※1} （1回目） 相談援助実習（2回目）	40時間 ^{※3} 140時間 ^{※3}	5日間 18日間

※1：カリキュラムの変更により、社会福祉援助技術現場実習から名称変更

※2：1日の実習時間9時間

※3：1日の実習時間8時間（2回とも同じ実習施設で行い、1回目5日間の実習を土台に2回目18日間の実習の課題を明確にし、学びの深まりを図った）

26）年からは「医療的ケア」の科目（50時間以上）が追加され、1850時間以上と増加した。そのため、介護福祉士国家資格取得のための負担が大きくなったことや介護福祉士養成の科目との読み替えが難しくなったことから、社会福祉士国家試験受験資格にかかる科目を2017(平成29)年度入学生から廃止した。

3. 介護福祉士養成以外の資格にかかわる科目について

設置当初から介護業務に加えて相談業務に就く場合や、公的機関に就職する場合に必要な社会福祉主事任用資格も取得できるよう配慮した。社会福祉主事任用資格は、厚生労働大臣が指定する科目のうち3つ以上を履修して卒業した場合に取得することができるようになっている。

2001（平成13）年度から2008（平成20）年度まではレクリエーション・インストラクターの資格が取得できるよう科目を配置していたが、2009（平成21）年度からは、福祉現場でのより実践的な学びを重視して、アクティビティ・ワーカーの資格取得のための科目に変更した。

2009（平成21）年度から健康管理士一般指導員受験資格が取得できるよう、介護福祉士養成課程の科目に組み込んだ。しかし、受験者が少ないことや医療的ケアの時間数が増加したことを踏まえ、2021（令和3）年度入学生からは、介護福祉士国家試験受験資格取得の科目から切り離した。

2009（平成21）年度から2011（平成23）年度までケアクラークの資格取得科目を設置していた。2017（平成29）年度からは介護事務管理士の資格取得のための科目を設置している。

2009（平成21）年度から2011（平成23）年度入学

生まで生活介護福祉専攻ウエルネスコースにおいて、ウエルネス総合マネージャーの資格取得の科目を設置していた。

4. 履修科目にない資格取得のための支援について
資格取得のための履修科目を配置し支援を行うのと同時に、履修科目にはないが、赤十字救急法救急員講習会の開催や学生の要望に応じて、認知症ライフパートナー検定試験の指導も行っている。福祉住環境コーディネーター検定試験も要望に応じて指導を行っていた。

本専攻の学生が取得した資格は、表6の通りである。

5. 専門学校との差異化（本専攻の特色）

社会福祉主事任用資格は、介護福祉士受験資格科目（共通科目以外）にほとんど含まれており履修しやすいカリキュラムとなっている。

一般教養科目が充実しており、社会人としての教養も身につくように科目が配置されている。（外国語は選択できるよう3科目以上設定）

専門教育科目は、介護福祉士養成に関する科目のみでなく、担当教員の専門性を活かし、考え創造する力を養う「特殊演習」を設定（平成20年度入学生まで）していた。

また、学生自身の生活スタイルに合わせて科目履修できる（必修科目以外の選択や他学科の科目の履修）ことや、長期履修制度（3年間）もあり、無理なく単位を取得できる。

教員の配置は、介護福祉士養成に必要な人数は本専攻の学生数の場合3名であるが、文部科学省の基準に合わせて7名が配置されている。教員は有する資格や前職の専門性を生かせるよう科目担当の配置

表6 取得資格（2001年度入学生～2021年度入学生）

資格名（入学年度）	取得人数
介護福祉士（2001～2015）	337
介護福祉士受験資格，合格者（2016～2020）	77，（69）
社会福祉士受験資格，合格者（2004～）	201，（17）
社会福祉主事任用資格（2001～2020）	449
医療的ケア（基本研修修了者）（2014～）	73
健康管理士一般指導員（2009～2020）	60
レクリエーション・インストラクター（2001～2008）	53
福祉住環境コーディネーター2級（2001～2006）	9
ウェルネス総合マネージャー（2009～2011）	24
アクティビティ・ワーカー（2009～2020）	170
介護事務管理士（15～16）＋（2017～）	9＋33
ケアクラーク（2009～2011）	13
認知症ライフパートナー2級（2017～）	3
認知症ライフパートナー3級（2017～）	12
赤十字救急法救急員（2001～2021） ^{*1}	332

*1：新型コロナウイルス感染症の影響で，2019，2020年は未実施

を行っている。

また，学生が悩んだり，相談したりしたい時，教員やカウンセリング室・医務室の職員との連携を図る環境が整っている。

大学間交流として，「介護予防にかかわる取り組みの共有～地域の方と共に～」をテーマに，帯広大谷短期大学との合同授業を2018（平成30）年1月18日日本学において実施した。

6. 海外研修

本専攻独自で企画したオーストラリア福祉研修旅行を2008（平成20）年から2010（平成22）年の3年間実施した。この研修の主な目的は，①異文化に触れ，国際感覚を身につける，②福祉先進国オーストラリアの福祉施策の学習や介護現場の見学を通して日本におけるより高度なケアのありかたを模索する，③アクティビティ実施を通して，自国の文化を再認識する，④言語を超えたコミュニケーションの意義を知る，の4点であった。毎年8名の学生と教員2名が参加し3年間で30名が研修を行った。

また，生活文化学科 食物栄養専攻課程が主催している中国江南大学文化・学術研修に2017（平成

29）年度2名が参加した。

V. ボランティア活動

1. 福祉施設へのボランティア活動

本専攻開設当初から，介護・福祉に関する見識を広め，就職先の種別決定の手がかりや就職への意識を高めるため，長期休業（特に夏季休業中）を利用して大学から福祉施設にボランティア活動の依頼をする等，ボランティア活動に積極的に取り組む仕組みを作ってきた。

その結果，施設側からもボランティア活動の依頼が来るようになり，夏季休業中のみならず，春のお花見，秋の運動会，冬のクリスマス会等1年間を通してボランティア活動に参加している。

また，初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講し初級障がい者スポーツ指導員資格を取得し，県内で実施している障がい者のスポーツ競技等のボランティアに参加している学生もいる。

2. 香川短期大学学生赤十字奉仕団

2002（平成14）年に「香川短期大学学生赤十字奉

仕団」を結成した。香川短期大学学生赤十字奉仕団役員を中心に毎年総会を開催し、ボランティア活動の報告と計画を発表してボランティア参加者を募っている。日本赤十字社香川県支部からもボランティア活動の依頼を受け、赤十字フェスタや献血推進活動、研修会等に参加している。

大学祭（2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）においても、募金活動やチャリティーバザーを行い、収益は日本赤十字社香川県支部に寄付している。

最近では、日本国内における災害に対して、災害義援金活動を香川短期大学学生赤十字奉仕団役員が中心に自主的に行っている。

また、国内の災害だけではなく海外の状況にも目を向け、2021（令和3）年度卒業式、2022（令和4）年度入学式を中心に、ウクライナ侵攻に伴う人道支援基金の募金活動も行った。

VI. 地域貢献

本専攻開設当初から地域の障がいのある子どもへの支援として、プール・遊びを通して発達を促す活動、親の会も行っていた。

2015（平成27）年度から毎年香川県の補助金事業の1つである香川県介護人材確保事業「福祉のとびら」を、香川県介護福祉士養成連絡協議会が受託し、本専攻は県内の小・中学校に出向き、児童・生徒を対象に「介護・福祉の仕事」や「介護福祉士とは」等の啓発事業を展開している。

上記以外の補助金事業や委託事業（介護に関する入門的研修等）も行っている。

また、各教員が中讃地域（特に宇多津町・丸亀市・坂出市）を中心に各種委員会委員、介護認定審査委員等を担っている。

2015（平成27）年度宇多津町と包括的連携協定を締結し、高齢者福祉に関する事業を行っている。事業として認知症サポーター養成講座や認知症の理解を深めるために、DVD作成（認知症に関する劇）等を行った。

2021（令和3）年度は、高松市とも包括連携協定を締結し、高齢者福祉に関する事業として子ども向け認知症サポーター養成講座事業（高松市の小学

校）を実施、2022（令和4）年度も同様に実施した。

また、本専攻の学生には、リーダー的存在として現場で活躍してほしいという思いがあり、学内外の授業において一人ひとりが相手の立場を考えて行動し、支え合って地域を活性化する力を養うとともに、支え合う関係の地域づくりにも力をいれてきた。

VII. 卒業後の進路について

2022（令和4）年3月時点において進学した学生の総数は、21名（4.7%）でその内訳は、大学（編入）13名、短期大学1名、看護専門学校5名、看護以外の専門学校2名である。

就職した者のうち、介護福祉士として福祉関係（施設・事業所等）の就職は312名（69.5%）、医療機関は71名（15.8%）、介護・福祉に関係ない一般企業の就職は32名（7.1%）、家事従事（結婚・就職準備等）32名（7.1%）であった。

福祉関係への就職先の内訳をみると、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設、デイサービス、デイケア、認知症対応型共同生活介護、訪問介護、重度訪問介護等である。

おわりに

介護福祉士養成機関として専門学校から短期大学に移設された2001（平成13）年当初から、1つ1つの支援を行う時、その支援の根拠や意図を考えることの大切さを重視して教育してきた。この教育は、本専攻の2年間で完成されるものではなく、この2年間を基礎として現場で研鑽を重ねることで、より社会に貢献できる人材に育っていくものであろう。これからも卒業生の活躍に期待している。

また、本専攻の教育において学生との対話も大切にしている。本学は担任制をとっていることもあり、教員と学生の距離が近くなり、悩みごとがある時は相談しやすい環境にもなっている。担任だけで解決が難しい内容に関しては本専攻の教員全員で解決方法を考え、学生が学習や日常生活を不安なく送れるよう対応してきた。

本専攻設置2年後に、専攻科（福祉専攻）も設置

された。専攻科（福祉専攻）は、本学の子ども学科Ⅰ部・子ども学科Ⅲ部等において、保育士資格取得後、1年間で介護福祉士国家資格（受験資格）が習得できる課程であったが、専攻科（福祉専攻）も入学者の減少により、2016（平成28）年度入学生を最後に廃止となった。

2020（令和2）年12月に本専攻の学生募集について理事長・常務理事・学長・副学長・入試センター長と本専攻の教員との間で話し合いがなされ、高校訪問や施設への働きかけを行ったが、2021（令和3）年度の入学生は、定員の半数に満たない状況となり、2021（令和3）年の入学者を持って学生募集を停止することとなった。

本専攻は、現在香川県において専門学校ではなく、高等教育である大学（短期大学）での唯一の養成機関である。大学は教育と研究と地域貢献を使命としているので、教員は介護福祉士養成だけでなく研究者として小中高等学校での介護・福祉等に対する活動や高齢者の健康維持増進のための取り組み、認知症の理解のための講座等も行ってきた。

学生とともに考え意見を出し合って1つのことを成し遂げることを大変さとするばらしさ、また、その時の達成感を心にこれからの生活（人生）の糧として、今以上に向上していけるよう努力していききたい。

本専攻で学んだ卒業生がこれからの社会において、「介護福祉士」の必要性和重要性を広く社会に浸透させていくようますますの活躍を期待し願っている。

謝 辞

本専攻のあゆみをまとめるにあたり、学生支援部並びにキャリア支援センターの教職員の方々、退職された先生方、実習先の指導者や職員の方々、在学生、卒業生、ご協力いただいた地域の方々に心より感謝申し上げます。

本専攻は2023（令和5）年3月をもって廃止予定ですが、先生方、在学生、卒業生の今後の活躍に期待します。

引用文献・参考文献

- 1) 学生支援部 教務グループ・学生グループ 教務委員会・学生生活委員会：香川短期大学『学生便覧（令和3年度入学生用）』，pp.4-9
- 2) [介護福祉士国家試験] 受験資格：福祉系大学等：公益財団法人 社会福祉振興・試験センター，<https://www.sssc.or.jp/kaigo/>（2022.9.24）
- 3) 学生支援部 教務グループ・学生グループ 教務委員会・学生生活委員会：香川短期大学『学生便覧（令和3年度入学生用）』，pp.141-143（2021）
- 4) 学生支援部 教務グループ・学生グループ 教務委員会・学生生活委員会：香川短期大学『学生便覧（令和3年度入学生用）』，p.101（2021）
- 5) 介護福祉士養成講座編集委員会：第1章「介護総合演習で何を学ぶか」，『最新介護福祉士養成講座総合演習・介護実習』[池田明子]，p.210，（2019）中央法規出版
- 6) 香川短期大学創立50周年記念誌編集委員会：『香川短期大学創立50周年記念誌』，pp.25-27（2017）